コミュニケーション力の育成は，まずは『聴く・聴き合う』ことから

The Development of Communication Skill Begins with "Listening, Listening to One Another with a Sympathetic Ear"

岩　本　泰　則
Yasunori IWAMOTO

1　本講座の概要

「コミュニケーション力の欠如」や「人と人とのつながりの希薄化」が社会問題，教育問題になっている。その要因は複雑多様であるが，「聴く力の減退」がその大きな要因の一つになっているのではないかと思う。豊かなコミュニケーション力の育成は，どう話すかの前に，どう「聴く」かが前提である。

そこで，この公開講座では，「聴く」ことの重要性，つまり，「聴く」ということが，人間の尊厳であり，人と人とのつながりをつくり，望ましい人間関係の基盤をなしているコミュニケーション力の育成の基盤になることを２つの事例を通して本テーマに迫りたい。一つは「聴く」ということに大きな示唆を与えてくれた絵本「と・も・だ・ち」であり，もう一つは，人間の尊厳としての「聴く」を中心にした学校づくりの実践事例からである。

以下は，H20. 10. 12，つくば国際短期大学公開講座において，別紙資料のパワーポイントを利用しながら実際に行った講座に加筆訂正したものである。

2　本講座「コミュニケーション力の育成は，まずは『聴く・聴き合う』ことから」の実際

(1) なぜこのテーマなのか？

本学の岩本と申します。公開講座に来て頂いて有難うございます。この講座を担当するに当たって，何をテーマにするか悩みましたが，ここ数年こだわってきたことがあります。それは，「聴く」ということです。そこで，講座のテーマを「コミュニケーション力は，まずは〈聴く〉ことから」にしました。

最初になぜこのテーマなのか，その理由について申し上げます。

一つは，「聴けない，聴かない」現実があるということです。

私はこの３月まで中学校の校長をしていました。数年間教育行政にいた私は，４年ぶりに中学校に赴任しました。集会等で生徒が話を聞けない。私語が多い。PTA の集まりがありましたが保護者も聞けない。保護者の授業参観があります。廊下でしゃべっている。授業参観中なのにそこでもしゃべっている。そういう状態でした。市民のある集いに招待されたことがあります。そこでも私語がたえない。私達教師の集まりでも講話などを聞いている途中に話しかけてくる人がいます。いい迷惑です。教育者でもあり，社会的立場の高い人でさえ私語の慎めない人を見かけることもあります。今年度４月，本校の教師となったわけですが，最初の授業が100名近くの授業だったのですが，私語がなくなるまで随分時間がかかりました。少人数の場合だと違うのですが。私の不徳の致すところであるといえばそれまでですが，小中学校の教師時代「静かにしなさい，は禁句」と自分にも言い聞かせ，職員にも要求していた私にとってこんなに情けないことはありませんでした。

私はこの数年，「子どもたちが学び育ち合い，教師たちが学び育ち合い，親たちも学校の教育活

動に参加して学び合う『学びの共同体としての学校づくり』」を追究してきました。それは，佐藤学氏（東京大学大学院教授）が提起した学校づくりの考え方ですが，その考え方のもとに，3年間，荒れた学校の学校改革に取り組んできました。その根底にあるものは，人間の尊厳であり，その中心は「聴く」という行為であり，それを継続していくことにより，生徒も教師もそして保護者も学び合い育ち合う学校へと変容することができました。そういう学校づくりをしてきた私にとって「聴けない，聴かない」学生とどう向き合っていけばいいのか，数ヶ月は途方に暮れました。

もう一つは，「コミュニケーション力の減退や欠如」や「人と人とのつながりの希薄化」が社会問題，教育問題になっている，それが多くの犯罪にもつながっているように思えます。昨年の秋葉原殺傷事件は，今日の社会問題を象徴するような事件でした。「ブログにまで無視された」「携帯電話のサイトへの書き込みを無視されたことへの不満が怒りとなって犯行に及んだ」と担当検事が犯行動機を説明しています（2008.10.11読売新聞）が，人は本来誰でも自分を理解してもらいたい，認めてもらいたい存在なのです。なのに，人と人との関係が益々希薄になってしまっています。

以上，二つの理由をあげましたがなぜこのようになってしまったのでしょうか。その要因は複雑多様ですがその１つの要因は「聴く力の減退」にあるのではないか，コミュニケーション力の欠如や人間関係の希薄化は，聴く力の減退にあるのではないかと思うのです。

コミュニケーションは聴くという受信と，話すという発信から成り立ちます。正確には聞く・読むという受信と，話す・書くという発信から成り立っているわけです。コミュニケーション力を高めていくには，この４つ要素を総合的に身につけていくことが必要になりますが，ここでは，コミュニケーションの一番重要な要素である「聴く」に視点を当てて考えていきたいと思います。前置きが長くなってしまいました。まず前半は，絵本「と・も・だ・ち」の内容から，後半は「Ｋ中学校の学校づくり」から，「聴く」ということに視点を置いて，本講座のテーマに迫りたいと思います。

(2) 絵本「と・も・だ・ち」はどんなメッセージを発しているだろうか？

ここに絵本「と・も・だ・ち」があります。「絵本『と・も・だ・ち』はどんなメッセージを発しているだろうか？」，映像をご覧になりながら考えてください。では読んでみます。

アンディは，パパやママとあたらしいうちにひっこしました。ともだちをたくさんつくるつもりです。

「およぐのがすきなこだといいなあ。ぼく，いちばんすきなんだもん」

さいしょにあったのは，クライブでした。クライブはなんだかにおいがします。ごみすて

ばであそぶのがすきなのです。

「きっと，およぐのはすきじゃないはずさ」とアンディ。

ゾエは，げんきよくはねまわっていました。

「たすけて！　らんぼうすぎるよ」

マージーは，ドラムをたたいていました。

「いっしょにたたかないかい？」マージーがききました。

「いいえ　けっこう。ぼくには　うるさすぎる」

「こっちにきて，ぼうえんきょう　のぞかない？」とチャールズ。「ほしのなまえ，ぜんぶしってるから，きみにおしえてあげるよ」

アンディはじぶんよりりこうなこはきらいでした。

「ぼく，ほしなんかに　きょうみない」

（中略）

「おともだちは，できた？」ママにきかれて，アンディは「ううん」と，こたえました。

「どうして？」「だれもすきになれないんだ。クライブはくさいし，ゾエは，らんぼうだし，マージーは，やかましいし，チャールズは，りこうすぎるし，バーニーは，ぼんやりすぎる。それに，シャーロットは，はずかしがりやなんだ」

「みんなが，みんな，おなじじゃないのよ」ママが，いいました。

「もし，おともだちをつくりたいのなら，あいてのありのままを，だいじにおもってあげなきゃ，ね」

「でも，ぼくは，およぎにいきたいんだ！」

ゆうがた，アンディは，そとをぶらつきました。

シャーロットが，チャールズのぼうえんきょうをのぞいています。

バーニーとクライブは　ゴミすてばでかくれがをつくっています。

マージーとゾエは，がっそうをしていました。

アンディは，ひとりぼっち。もしかしたら，ともだちをつくるのって，およぐことよりだいじなのかも。

チャールズと，きしゃをつくりました。バーニーには，べんきょうをおしえてあげて，マージーとは，がっそう。そして，シャーロットはだきしめてあげました。

「あなただいのしんゆうよ」シャーロットはいうと，アンディにキスしてくれました。

おともだちがみんなで，あそびにきました。「きょうは，なにして　あそぶ？」

「およぎに　いこう！」とアンディが，いいました。

さて，絵本『と・も・だ・ち』はどんなメッセージを発しているでしょうか。友達になるとい

うことは，まず「相手を受け入れること」だというメッセージが無条件に胸に飛び込んできます。そしてこれは，「人と人とのつながりをつくる」と「コミュニケーションの構築」と全く同じことに気づきます。相手をまるごと受け入れることの大切さが伝わってきます。友達になるということは，相手を受け入れること，それはコミュニケーションにおいては「聴くこと」だということでしょうか。そういうメッセージを発しているのではないかと思います。

ここで，この「聴く」という字ですが，「聴く」という字の持つ意味について確認しておきましょう。「聞く」はただ耳できく，自然と耳に入ってくる，放っておいてもどこからともなく聞こえてくる。聞くはそういう意味ですね。しかし，「聴く」はちがいます。こういう意味があります。

《「聴く」の意味について》

聴＝「耳，目，心」

「耳，十四の心」

・聽＝王様が耳を澄まして十四の心で聴く。

・言葉の内容や理論性ではなく，その背後にある気持ちをきいたり，表情や態度等のボディランゲージを読み取ったりすること。

・相手の声のトーンや表情などに含まれている思いや背景を全神経を集中して聴く。

例えば，「相談があるんですが」と聞かれた場合，「なにっ，あーそう，こうしたら」これは聞く。そうでなく，「ここじゃ話しにくそうだね。じゃあ向こうで・・・」これは聴く，こういう違いがあります。

さらに「聴く」という姿勢には相手を「理解する」「大切にする」「受け入れる」「尊重する」という思いが入っています。それほど「聴く」には深い意味があるのだと改めて痛感させられた次第です。

(3) K中学校の学校づくりは，どんなメッセージを発しているだろうか？

ここから後半に入ります。前半では，絵本の世界からテーマに迫ったのですが，今度は実際にあったことからテーマについて考えたいと思います。最初にもお話しましたが，私は3月まで3年間K中学校の校長をしていました。そこでは，『学びの共同体としての学校づくり』に取り組んで参りました。「学校は，子どもたちが学び育ち合い，教師たちが学び育ち合い，親たちも学校の教育活動に参加して学び合う場所である」という考え方を中心とした学校づくりです。その根底にあるものは，「人間の尊厳」であり「聴く」の重要性を中心課題としています。このような考え方を基本において学校づくりを推進して参りましたが，学校は日増しに変容していったのです。

これから3年間の学校づくりの過程についてお話しします。「K中学校の学校づくりは，どんなメッセージを発しているだろうか？」を考えながら聴いてください。初めに，赴任した中学校の様子からお話します。いわゆる荒れた状態でした。(略)

では，そういう状況を打開するためにどんなビジョンや方策をとったかですが，『学びの共同体としての学校づくり』，特に「聴く・聴き合う」を基本にした学校づくりをどのように推進していくか次の点を職員にお願いしました。

①生徒の話をじっくり聴く，とことん聴く，物言わぬ身体に注意を払って聴く。

・まず授業の中で，子どもの発言の理（筋道・理由・道理）を，自信のない子の声にならない声を，つぶやきを聴く。

②教師の「声」「言葉」「身体」に柔らかさを

・権威的に言うのでなく，いかつい目でなく，心を開くような

③怒鳴って統制する指導を捨てる

④授業を変える

・教師が一方的にしゃべる授業　⇒　学び合う授業に

・小グループ活動で，仲間で聴き合う活動を大切にする。

・机の配置は「コの字」に

全職員によるこうした継続的な営みが大きな変容をもたらしました。「教師の力だけでは限界がある」と呼びかけ，生徒の力や保護者の力を大いに借りました。「学校は内側からしか変われないし、その内側からの改革は、外からの支援なしには持続しない」という考えのもと外部の力も沢山お借りしました。

次に生徒たちの変容の姿を映像で用意しましたのでご覧ください。…（約30枚）ごらんになっていかがですか。生徒はこんなにいい表情になってきたのです。生徒は人間関係がよくなりました。柔らかくなりました。信頼関係が生まれ，不登校がなくなり，学力もついてきました。保護者も変わりました。学校への協力が多くなりました。私語もなくなりました。そして教師も随分変容しました。生徒の考えに共感，共振し生徒をしっかり受け止めるようになり，生徒の側に立てるようになり，生徒を見る目も変わってきました。映像にあったように保護者もじっと聴けるようになり，学校の教育活動をどんどん応援してくれるようになりました。子どもが変わると親も変わるんです。信頼関係が強まっていくからなのでしょう。

生徒の作文を紹介しましょう。

●じっくり話を聴いていると，友達のいい所が分かってくる。Aさんがこんなに素晴しい考えを持っているのかと思うようになった。そして尊敬するようになった。

●４人グループで考え合っているのではない。文章を通して４人で思いあっているのだ。

●最初は単語くらいしか発表できなかった自分が長々と自分の考えを言えるようになったのは自分自身でも信じられないくらいです。それは友達が僕の話をよく聴いてくれるからではないかと思います。

こうした生徒の作文に，教師はこうコメントしています。

○聴く・聴き合う関係があったからこそ，こういう言葉が出てきたのではないか。私はこの生徒たちに追い越された思いになりました。

○２年生の頃，この生徒は，質問してもせいぜい単語を並べるくらいでした。それが３年生の終わり頃になると５分もしゃべれるようになったのです。友達の話を聴いて，思いを吸収して，それがあるから話せるようになったのだし，彼の話を本気で聴いている仲間がいるからこそ，長くしゃべれるようになったのではないか思います。

○これまでは，話すことに力を入れてきましたが，順序が逆でした。聴くということをやっていないと話せるようにはならないと痛感しました。

さて，Ｋ中学校の学校づくりについてお話してきましたが，どんなメッセージを発しているのでしょうか？　…この映像をみてください。このようにまとめてみました。

「聴く・聴き合うが生徒を変える・学校を変える―聴く・聴き合う関係・その素晴しきもの」

このことの素晴しさ，それが人間を豊かにしていくということを３年間の学校づくりを通して実感したのです。「聴くが学校を変えた」といっても過言ではありません。

ここで参考までに申し添えますが，『学びの共同体としての学校づくり』の考え方を取り入れて全国では小学校が2000校，中学校が1000校，高校では数十校余りが学校づくりを推進しているとのことですが，どの学校も基本に「聴く」ということが重視され，私も先進校を何校か参観して来ましたが，そのことが貫徹されている学校はどの学校もモデルにしたいそういう学校になっております。

(4) ２つの事例，絵本『と・も・だ・ち』及び『Ｋ中学校の学校づくり』が発している共通のメッセージとは何だろう？

３つ目の課題です。「絵本『と・も・だ・ち』『Ｋ中学校の学校づくり』が発している共通のメッセージとは？」

この映像を見てください。絵本「と・も・だ・ち」「Ｋ中学校の学校づくり」，両方とも「聴く・聴き合う」がキーワードです。それが「人と人とのつながり・コミュニケーションを豊かにする」。それは，コミュニケーション力はまずは『聴く・聴き合うことから』ということです。それが共通のメッセージだと考えます。

時間が来たようです。聴ける人間は誠実で謙虚です。私もそういう人間になりたいと思います。最後になりますが，「聴く・聴き合う」という宝物，このテーマについてはこれからも追究して行きたいと思っています。そして，本学でも学生に発信していきたい，そう思っております。つたないお話でしたがご静聴有難うございました。

3　講座を終えて

(1) 一市民の質問から

講座が終了したとたん一市民から質問を受けました。「聴くということの意義について再確認しました。それから，学校づくりに共鳴しました。こういう学校がなぜ広まっていかないのか。私にも２人の子どもがいる。学校はいつ行ってもにぎやか。人の話を聞いていない」嘆きながらの質問でした。初めは学校側の立場であたりさわりない一般的な説明をしていましたが，10分以上立っても引き下がらず，色々と迫ってきました。そこで「校長の問題です。校長が学校のビジョンを持ち責任を持って，本当に大事なことを職員と共に力を合わせて…」という話をしたところ，「分かりました。その通りだと思います。有難うございました。」と鄭重に頭を下げて教室を出て行かれました。この講座の目的とは少しずれたような感じはしましたが，組織の長の仕事の重要性を改めて認識させられました。

(2) Ｋ高校で模擬授業を行って

11月にはＫ高校で１，２年生を対象に本学の宣伝も兼ねて模擬授業をすることになりました。公開講座と高校生に合わせ，ほぼ同じ資料を用いて，「これから教師を目指す人たちが，まず最初に身につけるべき資質とは」というテーマで授業を行いました。最後には次の言葉でしめくくりました。

・「今日のキーワード」「これから教師を目指す人たちがまず最初に身につけるべき資質とは」「聴くこと・傾聴」

・「傾聴できる人って」「人が好き，そして自分も好き，プラス思考，人に共感できる，心を開ける人，自分を楽しませることができる人，…。」

・「そういう教師の誕生を祈っております。」

約20名の生徒は1時間半，見事には集中して聴き，考えていました。以下はその感想文からです。

●私は保育士になりたいと思ってこの授業を受けました。ピアノが弾けたほうがいいとか，こんな資格がとれる等を教えてくれるのかなと思っていました。しかしこの短い時間の中で，子どもたちに教育するのに必要なのは，まずは聴くことだということ，人とのかかわりや愛情，自分や人を好きになること等を学び，これは資格とかそういうものではなく，人として一番大事なことを教えてくれた授業でした。私にはまだまだ足りないことだらけだけど夢に向かって頑張りたいと思います。とても楽しかったです。有難うございました。

●今回の模擬授業を受けて，「聴くこと」の大切さを学んだ。保育士を目指すためには，ただ単に資格を取ることだけが重要なのではなく，「愛」とか「人とのかかわり」とか「思いやり」とかもっともっと人間として身につけなければならないものがあり，その能力を養わなければなら

ないことを知った。

そして，ただ聴くだけでなく，自分を好きになったり，プラス思考，心を開けるなど内面的なことから自分を変える必要があり，それを追求しないと人とうまくコミュニケーションをとれないことも知った。「保育士になりたい」＝「聴ける人になりたい」ということだと思うので自分もまず人の話を聴くことから始めたい。

●今回保育のことで学んだことで一番印象に残っていることは「聴く」ということです。教師になるために最初にこの「聴く」ということを身につけなければならないということが分かりました。自分だけが思っていることを話すだけはなく，しっかりと相手の言うことを「聴く」，そして受け入れることが大切だと思いました。

(3) 本講座を本学学生にも実施してみたい

K高校での模擬授業を行い，「この講座は本学の授業で使える」と痛感しました。「これから教師を目指す人たちがまず最初に身につけるべき資質とは」のテーマの，それは「聴くこと・傾聴」であることをしっかりと身につけさせたいと思っている。

参考文献

・ロブ・ルイス作　まつかわまゆみ訳　絵本「と・も・だ・ち」(評論社)

・佐藤学著「授業を変える　学校が変わる」(小学館)

・佐藤学著「学校の挑戦」(小学館)

・石井順治著「聴き合う　つなぐ　学び合う」(自費出版)

公開講座テーマ

コミュニケーション力は
まず
「聴く・聴き合う」
から

つくば国際短期大学　岩本泰則

「聴く」とは

聴 ＝ 「耳，目，心」
　　「耳，十四の心」

- **聽**=王様が耳を澄まして十四の心で聴く。
- 言葉の内容や理論性ではなく，その背後にある気持ちをきいたり，表情や態度等のボディランゲージを読み取ったりすること。
- 相手の声のトーンや表情などに含まれている思いや背景を全神経を集中して聴く。

「聴く」という姿勢には

相手を

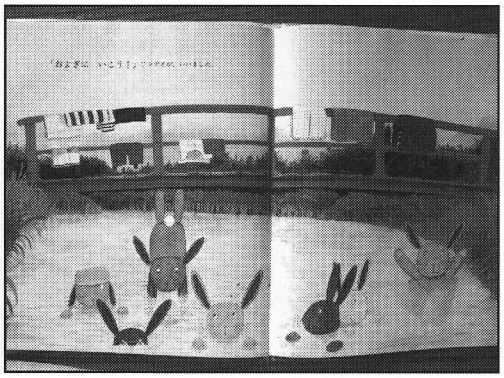
- 理解する
- 大切にする
- 受け入れる
- 尊重する

という思いがある。

1

絵本
「**と・も・だ・ち**」は
どんなメッセージ
を発しているだろうか？

絵本途中略



メッセージ

・「相手を受け入れることの大切さ」
・「人と人がつながるコミュニケーションの構築と同じ」

2

K中学校の「学校づくり」
は
どんなメッセージ
を発しているだろうか？

学校の実状は？

打った手

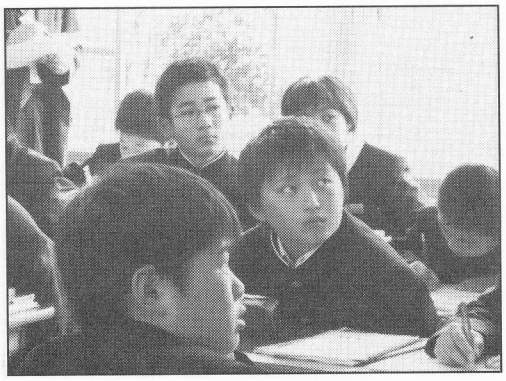
「聴く・聴き合う」を柱にした学校づくり

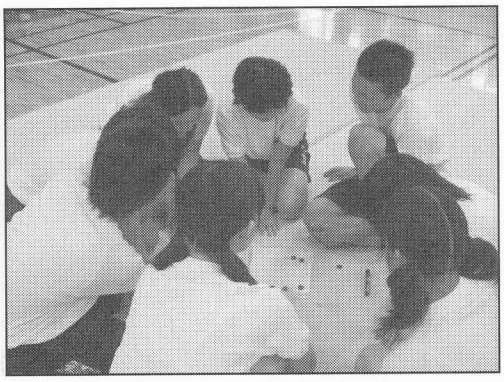
- 生徒の話をじっくり聴く
- 教師の「声」「言葉」「身体」に柔らかさを
- 怒鳴って統制する指導を捨てる
- 授業を変える

・教師が一方的にしゃべる授業 ⇒ 学び合う授業に
・小グループ活動で，仲間で聴き合う活動を大切にする。
・机の配置は「コの字」に

そして

変　容





写真以下略

K中学校「学校づくり」からのメッセージ

「聴く・聴き合う」
が
生徒を変える・学校を変える

—「聴く・聴き合う関係」，この素晴しきもの—

3

絵本「と・も・だ・ち」
と
「K中学校の学校づくり」

が発している
共通のメッセージとは？

絵本「と・も・だ・ち」 **K中学校の学校づくり**

⇩

聴く・聴き合う

⇩

人と人とのつながり
コミュニケーションを豊かにする

⇩

コミュニケーション力は
まず「聴く」ことから

最後に

- **「聴く」と言う宝物**
  これからも追求していきたい
- **本学でも　発信し続けていきたい。**